

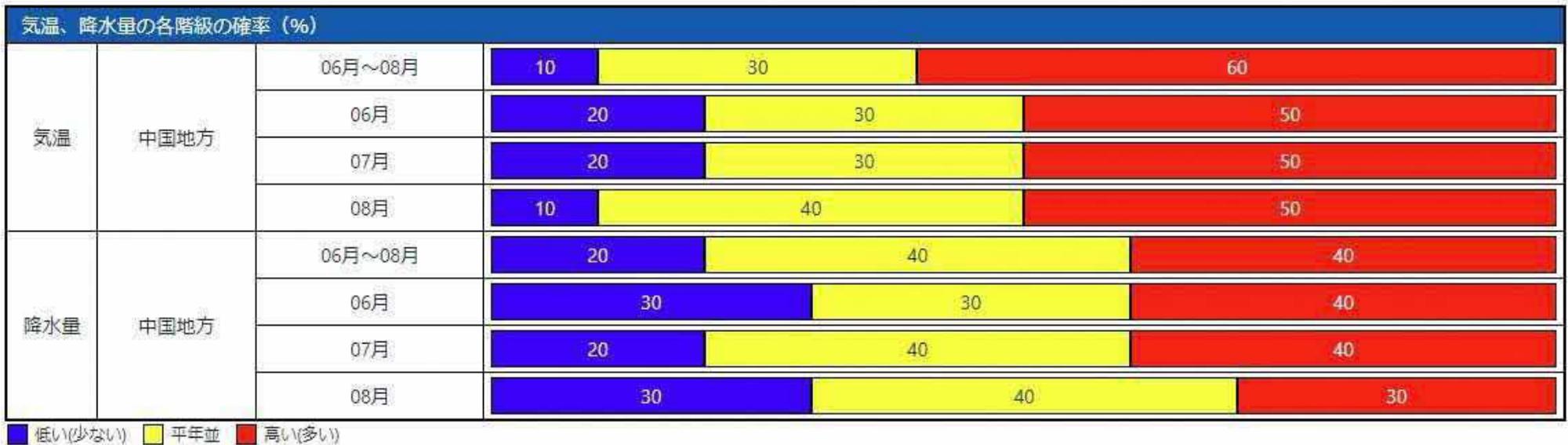
大規模氾濫時の減災対策協議会
及び
各地区流域治水及び減災対策協議会

鳥取地方気象台
令和6年6月5日

8月までの天候見通し

(中国地方3か月予報 5月21日発表より)

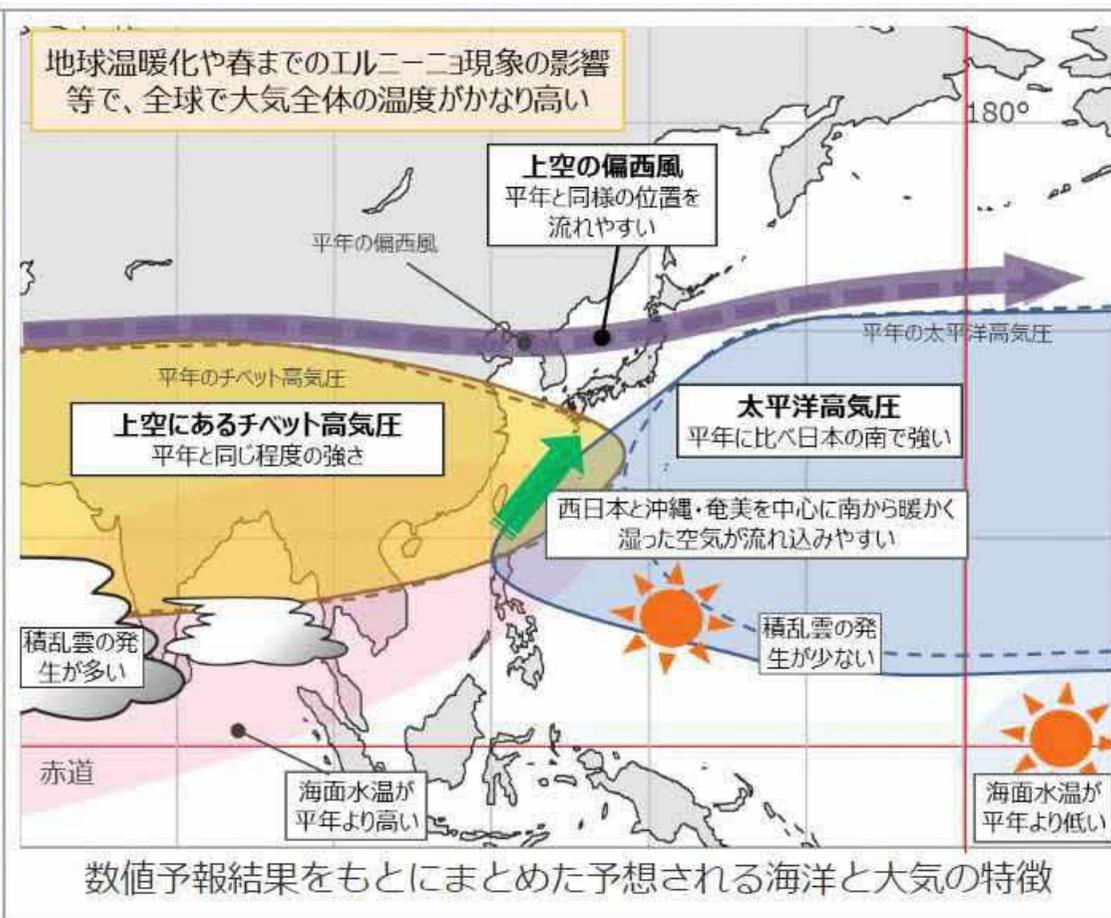
中国地方（山口県を除く） 3か月予報（06月～08月）		
2024年05月21日14時00分 広島地方気象台 発表		
06月～08月	気温	平均気温は、高い確率60%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
06月	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
07月	天候	期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
08月	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。



次回は2024年6月25日(火)14時00分に発表予定

予想される海洋と大気の特徴

- 地球温暖化や春までのエルニーニョ現象の影響等により、全球で大気全体の温度がかなり高いでしょう。
- インド洋熱帯域では西部を中心に海面水温が高く、積乱雲の発生が多い一方、フィリピンの東方海上では少ないでしょう。
- この影響により、日本の南で太平洋高気圧が強くなり、日本付近には太平洋高気圧の縁を回って暖かく湿った空気が流れ込みやすいでしょう。
- これらのことから、日本付近は、暖かい空気に覆われやすいでしょう。また、西日本と沖縄・奄美を中心に、前線や湿った空気の影響を受けやすいでしょう。



中国地方3か月予報（令和6年5月21日発表）の解説資料より

[中国地方の梅雨]

平年	入り	6月6日ごろ	明け	7月19日ごろ
令和5年	入り	5月29日ごろ	明け	7月16日ごろ

注) 梅雨入り・明けは、一般に数日程度の幅を持つ現象（〇〇日ごろと表現）。

梅雨入り・明け（速報値） https://www.data.jma.go.jp/cpd/baiu/sokuhou_baiu.html

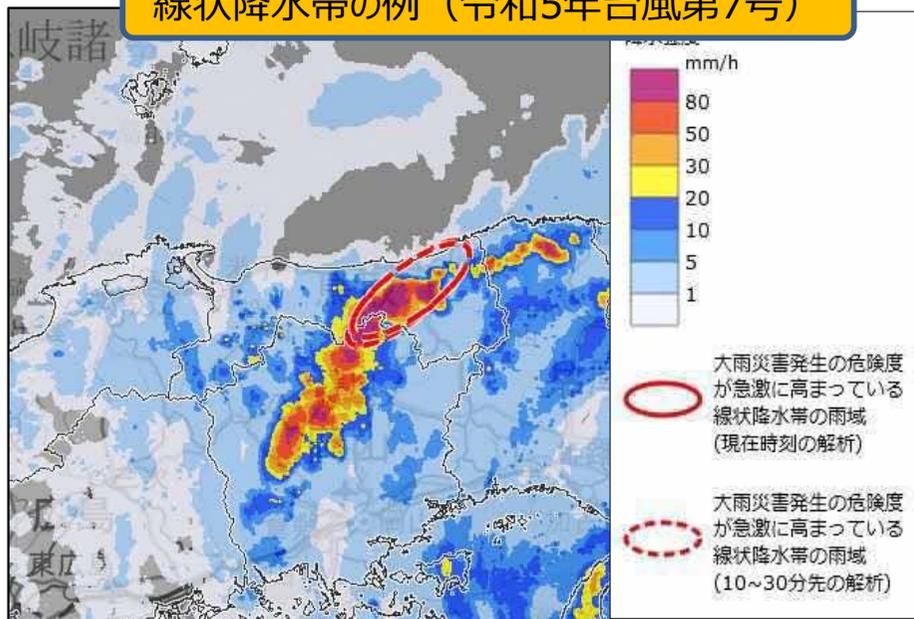
線状降水帯による大雨の新たな運用について ～府県単位での呼びかけを開始しました～

(令和6年5月27日～)

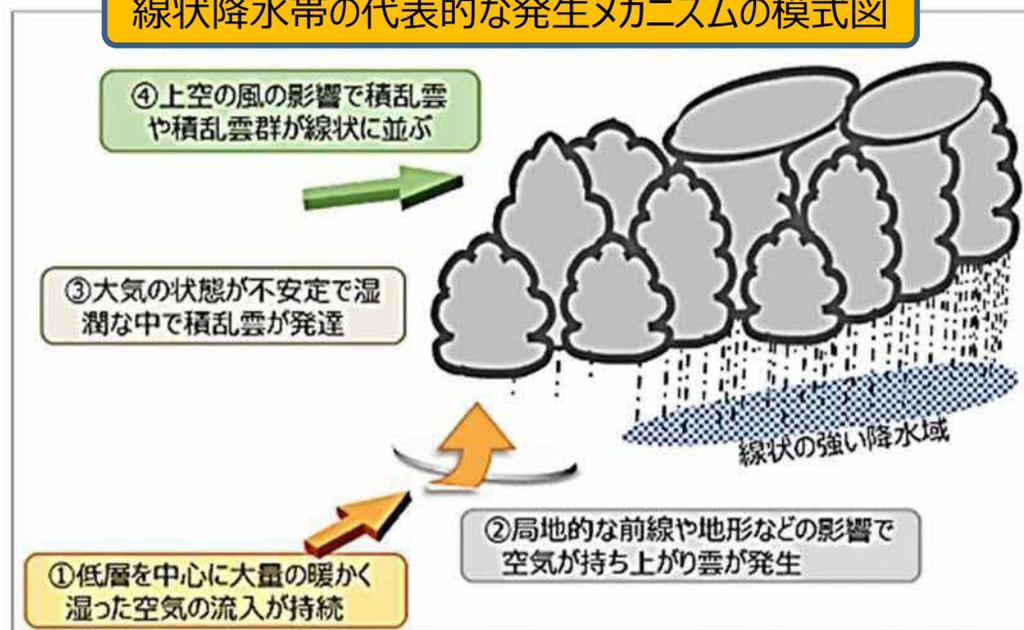
線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともなう雨域を線状降水帯といいます。

線状降水帯の例（令和5年台風第7号）



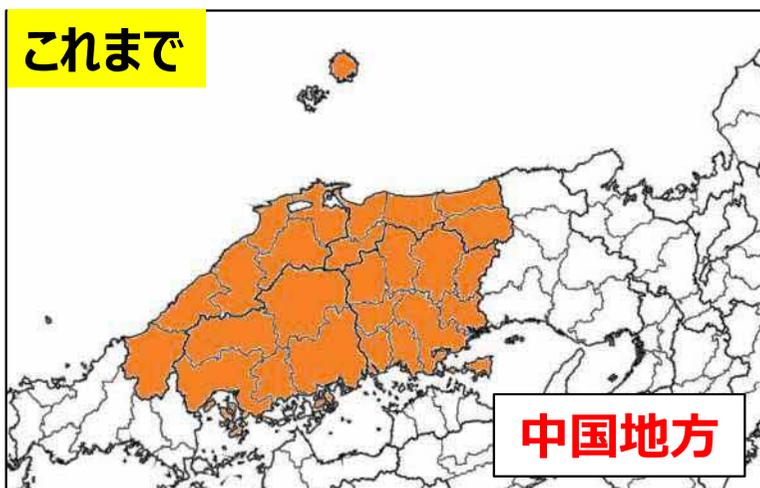
線状降水帯の代表的な発生メカニズムの模式図



線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ

- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を 満たすような線状降水帯による大雨の可能性が高い場合に、「気象情報」において半日程度前から府県単位で呼びかけ。

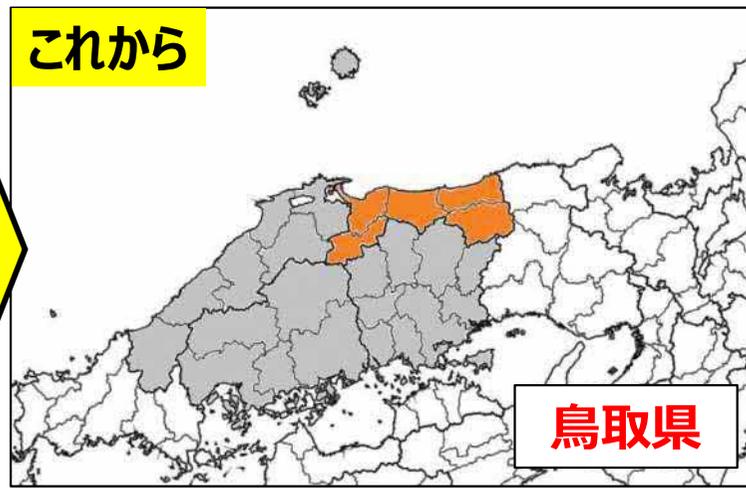
令和6年から開始する府県単位での呼びかけ（地方／府県気象情報）



これまで

中国地方

※呼びかけ対象地域のイメージ



これから

鳥取県

※呼びかけ対象地域のイメージ

地方気象情報

大雨に関する**中国地方**気象情報 第〇号
 〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 広島地方気象台発表
 <見出し>
中国地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。
 <本文>
 … (中略) …

大雨に関する**中国地方**気象情報 第〇号
 〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 広島地方気象台発表
 <見出し>
鳥取県では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。
 <本文>
 … (中略) …

府県気象情報

大雨に関する**鳥取県**気象情報 第〇号
 〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 鳥取地方気象台発表
 <見出し>
中国地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。
 <本文>
 … (中略) …

大雨に関する**鳥取県**気象情報 第〇号
 〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 鳥取地方気象台発表
 <見出し>
鳥取県では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。
 <本文>
 … (中略) …

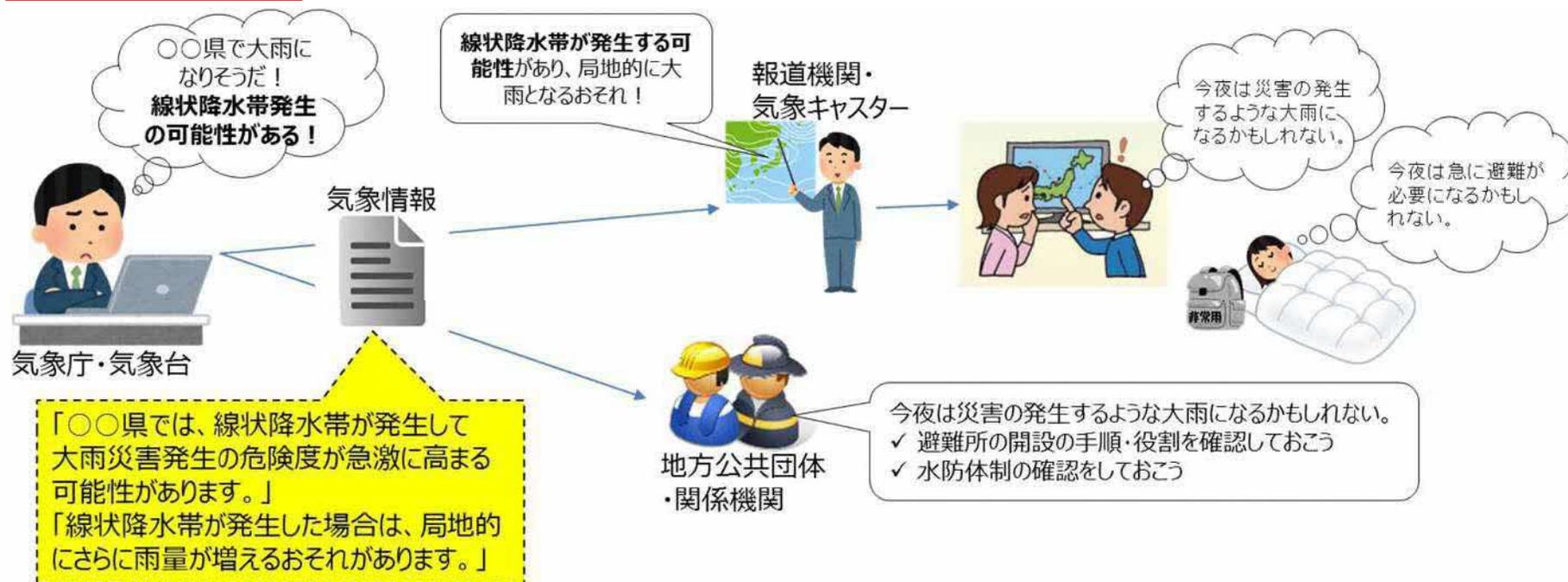
対象とならない広島県、岡山県、島根県では、府県気象情報についての呼びかけをしない。

※北海道や沖縄県では、府県予報区単位で発表します。
 ※鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表します。
 ※発表する情報の電文フォーマットは変わりません。

呼びかけが行われた時の対応例

府県単位で呼びかけを行いますが、
これまでと対応を変える必要はありません。

- 線状降水帯が発生すると、大雨災害発生の危険度が急激に高まることがあるため、心構えを一段高めていただくことを目的としています。この呼びかけだけで避難を促すわけではなく、ほかの大雨に関する情報と合わせてご活用ください。
- **市町村**の防災担当の皆さまには、避難所開設の手順や水防体制の確認等、災害に備えていただくことが考えられます。
- **住民**の方々には、大雨災害に対する危機感を早めにもっていただき、ハザードマップや避難所・避難経路の確認等を行っていただくことが考えられます。



線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけや「顕著な大雨に関する気象情報」といった線状降水帯に関する情報だけでなく、大雨警報やキキクル（危険度分布）等、段階的に発表する防災気象情報全体を適切に活用することが重要です。

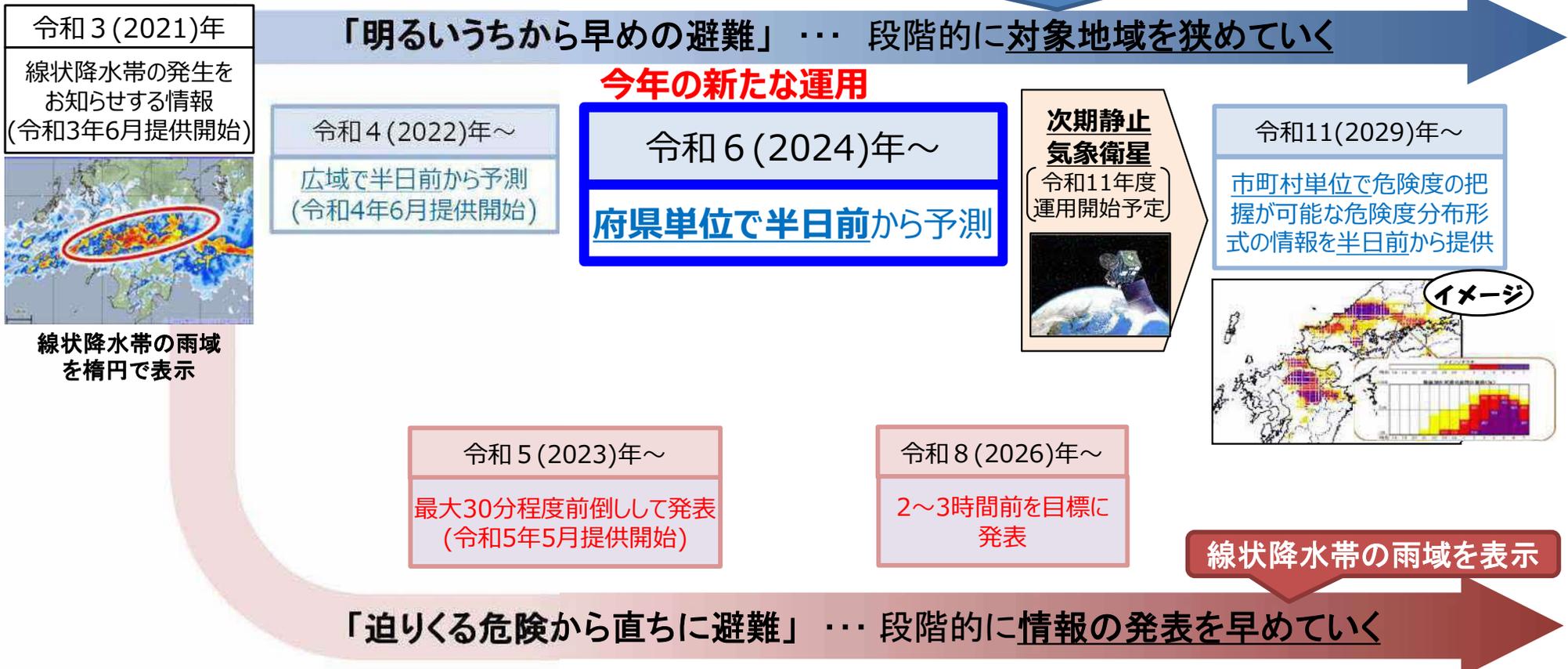
線状降水帯の予測精度向上に向けた取組(情報の改善)

観測や予測の強化の成果を順次反映し、令和4年6月より、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを、令和5年5月より、「顕著な大雨に関する気象情報」(線状降水帯の発生をお知らせする情報)をこれまでより最大30分程度前倒して発表する運用を開始。

令和6年5月27日からは、令和4年度から開始した半日程度前からの呼びかけを府県単位で実施。

線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

「明るいうちから早めの避難」… 段階的に対象地域を狭めていく



「迫りくる危険から直ちに避難」… 段階的に情報の発表を早めていく

※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく

【参考】線状降水帯の予測精度向上に向けた取組（観測・予測の強化）

線状降水帯は、現状の観測・予測技術では、正確な予測が困難なため、水蒸気観測等の強化、強化した気象庁スーパーコンピュータや「富岳」を活用した予測技術の開発等を進め、速やかに防災気象情報の高度化に反映し、住民の早期避難に資する情報を提供する。

